

# 授業科目 NO. 309 在宅看護学概論

## Introduction to Home Care Nursing

授業の形態：講義

単位数（時間数）：2単位（30時間）

開講年次・学期：2年次・前期

必修・選択の別：必修

キーワード：訪問看護、介護保険、医療保険、多職種連携、権利擁護

### 1 金沢医科大学看護学部の到達目標（全科目共通です）

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

### 2 学習目標

#### 1) 一般目標（GIO）

地域で生活する多様な文化・社会・価値観をもつ在宅看護の対象者の特性について理解し、対象者を取り巻く社会の変動をもとに、在宅看護の目的・機能について理解する。さらに、在宅看護の実践に必要となる訪問看護制度、介護保険制度などの制度と、在宅における関係機関・多職種との連携の必要性とその特徴と制度の課題について理解する。また、地域で生活する在宅看護の対象者の権利を尊重し、擁護するために必要となる知識について理解する。

#### 2) 行動目標（SBO）※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部の到達目標との関連を示す。

- (1) 地域で生活する多様な文化・社会・価値観をもつ在宅看護の対象者の特性について説明できる。(③)
- (2) 在宅看護の対象の特性や取り巻く社会の変動をもとに、在宅看護の目的・機能について説明できる。(③)
- (3) 在宅看護を提供するための訪問看護制度の概要とその仕組みについて述べられる。(③)
- (4) 在宅ケアシステムを構成する主な社会資源である介護保険制度等の概要・仕組み・サービスの種類および各種サービスを提供する関係機関・職種の役割・機能について述べられる。(③)
- (5) 在宅における看護職と他機関・多職種との連携の必要性とその特徴について述べられる。(③)
- (6) 地域で生活する在宅看護の対象者の権利を尊重し、擁護するために必要となる知識について述べられる。(①)

### 3 学 習 内 容

授業の内容については、授業計画に示す。

### 4 評 価

評価項目	評価割合
定期試験成績	55%
実習成績	%
レポート	25%
授業態度	%
小テスト	20%
その他	%
合計	100%

(特記事項)

レポート・小テスト等は、実施回と内容は授業の進捗状況で変更になる場合があります。

### 5 教 育 担 当 者

科目責任者：前田 修子

教 授 前田 修子 (在宅看護学)

准 教 授 蘭 直美 (在宅看護学)

### 6 教育担当者の実務経験

科目責任者（前田修子）は、医療機関看護師・市町村保健師として、地域に暮らす人々の特性アセスメント、介護保険や医療保険その他社会資源の調整、地域づくり、介護予防、多職種連携、看護実践に取り組んだ経験を有する。介護保険認定審査会委員経験を有する。

教育担当者（蘭直美）は、訪問看護ステーション看護師として、医療ニーズの高い在宅療養者への豊富な看護実践と多職種連携、ならびに管理者として訪問看護ステーションの管理運営経験を有する。介護保険認定審査会委員経験を有する。

### 7 教 科 書

河原加代子（編）：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1、第 7 版  
医学書院、2026

河原加代子（編）：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の実践 地域・在宅看護論 2、第 7 版  
医学書院、2026

### 8 推 薦 参 考 書

授業中に、各学習内容に応じた書籍やホームページ・動画などを紹介します。

## 9 準備学習に必要な時間及び具体的な学修内容

授業1コマにつき、事前・事後学習として計180分程度必要です。

- 1) 電子シラバスに、事前・事後に必要なレポートが掲載してあります。
- 2) 各授業の資料に、教科書の該当ページを記載してあります。事前・事後学習に活用ください。
- 3) 各授業の資料に、該当授業内容に関連した行動目標を記載してあります。授業後に到達できるように、事後学習に活用ください。
- 4) 授業の資料に、学習目標到達を確認するための問が設けられています。授業後は、事後学習に活用ください。また、事前学習として指示することもあります。

## 10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

- 1) レポート課題は、個別でコメントをフィードバックするか、授業時に全体に記載内容の全体的な傾向をもとに改善点・良かった点を説明します。
- 2) 試験は、試験後解答例を配布します。答案用紙は、原則返却します。

## 11 履修上の注意事項

- 1) レポートの提出方法は、担当者によって異なるので注意ください。
- 2) 期日を過ぎたレポートは、原則、受け取りません。やむを得ない事情は、提出前に申し出てください。
- 3) 電子シラバス上の提出は、機器トラブルなどに備え、早めの提出を心がけましょう。
- 4) 授業の進行速度、難易度、他教科との重複など、授業内容・方法に関して要望や気付いた点がある場合授業後の感想カードなどに記述ください。なるべく反映できるように配慮します。
- 5) 授業中にやむを得ず入退出する場合は、あらかじめ教員に申し出ておきましょう。
- 6) 授業中の学修内容以外のスマホ利用、私語、他科目の学修などは、他の学生の学修意欲を低下させます。
- 7) グループワーク時は、限られた時間で行いますので、時間内に完成できるようにそれぞれが役割を持ち積極的・主体的に進めましょう。
- 8) 在宅看護や在宅医療は、生活に密着した医療・看護であるため、新聞やニュース、行政の広報誌などにも制度利用や利用者の声等が記載されています。専門書以外からも、見聞を深めていきましょう。

## 12 オフィスアワー等

不在のこともあるため、事前に御連絡ください。

前田：mshuko@kanazawa-med.ac.jp

蘭：ran@kanazawa-med.ac.jp

## 第2学年

# 在宅看護学概論

学期	回数	開講日	時限	区分	講義・実習内容	レポート/小テスト等	講座・科目群名	教員名
前	1	4月06日(月)	3	講義	【講義】在宅看護の目的・理念・対象 地域で生活する多様な文化・社会・価値観を もつ在宅看護の対象者の特性 【レポート課題説明】	レポート(地域で生活する対象者の理解)10点	在宅看護学	前田教授
前	2	4月13日(月)	3	講義 演習	【講義】看護学からみた地域のとらえ方 【演習】地域について調べる		在宅看護学	前田教授
前	3	4月20日(月)	3	講義 演習	【講義】介護保険制度の概要 【課題】介護保険サービス利用方法、介護保険サービスの種類	レポート(地域における社会資源)15点 ※提出は夏季休暇明けを予定	在宅看護学	前田教授
前	4	4月27日(月)	3	講義 演習	【講義】介護保険制度により提供される居宅サービスの種類、提供機関、職種とその役割 【課題、演習】介護保険サービス事業所の調べ方		在宅看護学	蘭准教授
前	5	5月11日(月)	3	講義 演習	【講義】居宅介護支援事業所の機構と活動内容、ケアマネジャーの役割 【課題、演習】居宅介護支援事業所の調べ方	小テスト(5点)	在宅看護学	蘭准教授
前	6	5月18日(月)	3	講義	【講義】地域包括支援センター、介護保険外サービス、離職防止のための制度 【課題、演習】地域包括支援センターの名称、住所、職員配置、事業内容の調べ方		在宅看護学	前田教授
前	7	5月25日(月)	3	講義	【講義】医療保険制度、介護保険制度による訪問看護利用の仕組み、訪問看護ステーション 【課題、演習】訪問看護ステーション調べ方	小テスト(5点)	在宅看護学	前田教授
前	8	6月08日(月)	3	講義	つづき		在宅看護学	前田教授
前	9	6月15日(月)	3	講義	【講義】在宅看護の特性 対象・場の特性 住まいの多様化 【課題、演習】訪問看護ニュースの探し方		在宅看護学	前田教授
前	10	6月22日(月)	3	講義 演習	【講義】訪問看護提供の場の拡大と多様化 在宅看護の対象を取り巻く社会の変動 【演習】新聞記事から、訪問看護を取り巻く課題と現状について考える	グループワーク	在宅看護学	前田教授
前	11	6月29日(月)	3	講義	【講義】訪問看護サービスの提供(利用までの手順、費用)、訪問看護ステーションの管理運営(訪問看護の提供、質保証、記録など)	小テスト(5点)	在宅看護学	蘭准教授
前	12	7月06日(月)	3	講義 演習	【講義】在宅看護の機能、地域包括ケアシステム構築プロセス 【課題、演習】介護保険事業計画について調べる		在宅看護学	前田教授

## 第2学年

# 在宅看護学概論

前	13	8月24日(月)	3	講義	【講義】社会資源の定義、在宅ケアシステム、多職種・多機関の連携	小テスト(5点)	在宅看護学	前田教授
前	14	8月31日(月)	3	講義 演習	【講義】在宅看護対象者の権利擁護を行うための制度、連携・情報共有時の注意事項、個人情報保護・取り扱い、成年後見制度 【演習】動画視聴		在宅看護学	前田教授
前	15	9月01日(火)	4	講義 演習	【講義】在宅ケアにおける虐待予防・早期発見・対応、サービス提供者の権利擁護、意思決定支援 【演習】事例をもとに虐待予防について考える		在宅看護学	前田教授
前		9月08日(火)	3	試験	定期試験		在宅看護学	前田教授